

用語集

【あ】

開かずの踏切

ピーク時の遮断時間が1時間当たり40分以上の踏切のことです。

新たな防火規制

知事が指定する災害時の危険性が高い地域について、建築物の不燃化を促進し建築物の耐火性能を強化することを目的に創設された制度です。

駅端末交通手段分担率

出発地（自宅など）から駅または、駅から目的地までに利用される交通手段の比率のことをいいます。

延焼遮断帯

大規模な地震等の市街地大火の延焼拡大を阻止する機能を果たす道路、鉄道、公園等の都市施設と、それらの沿線の周囲に建つ耐火建築物により構築される帯状の不燃空間をいいます。

【か】

帰宅困難者

地震等の影響で交通機関の運行に支障が生じ、帰宅手段が閉ざされてしまった人々のことをいいます。

交通結節点

鉄道駅やバスターミナルのような、異なる交通手段を相互に連絡する乗り換え、乗り継ぎができる施設、場所のことです。

【さ】

市街地再開発

低層で木造住宅等が密集した地区などにおいて、土地の合理的で健全な高度利用と都市機能の更新を図り、災害に強い安全で快適なまちをつくりだす事業のことです。

【た】

耐震化

建築物の補強等により地震に対する安全性の向上を図ります。

第三次事業化計画

都市計画道路を計画的、効率的に整備するため、東京都及び特別区が策定した「区部における都市計画道路の整備方針」（平成16年）に基づいて、平成16年度～27年度の12年間に優先的に整備すべき路線を位置づけた計画です。

地区計画

都市計画法で定められたまちづくりの手法のひとつで、まとまりのあるいくつかの町丁目や街区、あるいは共通の特長をもっている地域ごとに良好な環境を整備、開発、保全するための計画です。

鉄道立体化

鉄道立体化とは、市街地において道路と交差している鉄道を一定区間連続して高架化又は地下化することであり、鉄道立体化により、複数の踏切が除却され、踏切遮断による交通渋滞及び踏切事故が解消されます。また、鉄道立体化は、都市交通の円滑化や線路で分断された市街地の一体化などを図り、都市活動の活性化に寄与するものです。

なお、鉄道を高架化する場合は、日照などの都市環境の保全に資する目的で、高架構造物に沿って側道の設置が必要となる場合があります。

【は】

バリアフリー

高齢者や障害者等が社会生活を営む上での物理的、制度的、社会的及び心理的な障壁（バリア）をつくらないとともに取り除きます。

ヒートアイランド現象

都市部において郊外部よりも気温が高くなる現象です。

不燃化

建築物の更新の際に燃えにくい建物へ建て替えを行うことです。例えば、鉄筋コンクリート造、鉄骨造、建物の防火性能を強化した木造に建替えます。

緑被率

緑被地は、樹木被覆地と草地をあわせた土地で、緑被率は一定の区域における緑被地の占める割合をパーセントで表示します。